

が育つ

『正解のない問いに挑む人間を育てるためには？』という

正解のない問いに挑む大人のフォーラム2021』を開催しました。

令和3年6月21日（月）に、猪名川町立中谷中学校体育館でこれからの猪名川町立学校園を考えるフォーラムを開催し、猪名川町立学校園の教職員、中学校再編準備委員など約120名が参加しました。



本フォーラムは、『学校は人が「育つ」ところ』という教育長の挨拶から始まり、続いて立命館守山中学校・高等学校から加藤 智博先生を講師としてお招きし、基調講演と意見交換会を行いました。

加藤先生は、東京・千代田区立麴町中学校で生徒主任と学年主任を兼務され、固定担任制の廃止（チーム担任制の導入）や定期テストの廃止、脳神経科学を取り入れた生徒支援など、工藤 勇一校長のもと教育改革の現場でミドルリーダーとして中心的な役割を担われてきた方です。

基調講演では、最初に加藤先生から「あなたの学校ではどんな生徒を育てようとしていますか？」と問いかけられ、その後、麴町中学校での教育改革についてご講演いただきました。

麴町中学校は、これからの時代（VUCA（ブーカ・将来の予測が困難）の時代）を生きる子どもたちが、育つために必要な力について考え、『自律』『尊重』が「最上位目標」（学校目標）として明確化されていました。そして目標は、みんなが同じ言葉を使い続け、常に立ち返れる言葉であることが大切であったといえます。

「チーム担任制の導入」「宿題廃止」「定期テスト廃止」「PTA・生徒による新標準服」「生徒運営の体育祭文化祭」などはすべて、最上位目標を達成するための「手段」であり、この「手段」をいかに教員同士が対話し、共有し、生徒たちの支援者でいられるかを考えることが大切だとお話いただきました。また、ミドルリーダーとして大切にされてきたことについて、常に教員同士が「目的は何だ？」をキーワードに対話し、決定したことについては後戻りせず、批評（批判）ばかりするのではなく、当事者としてよりよくするために前向きに考えていくことを伝えてくださいました。



令和4年度猪名川町立清陵中学校が開校するまで、あと9ヶ月となりました。中学校再編準備委員会は「学校を超え地域を超え、対話によって他者の価値観や考え方に共感し、互いの違いを乗り越えて新しい学校をゼロから準備」という思いをもって進めています。今回のフォーラムで改めて、『主語は「子ども」を実現する学校づくり、教員の意識改革』を「最上位目標」として、これからも大人が正解のない問いに挑み続けたいと思います。